

月刊反トマホーク通信

No. 40
89.2.20
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095
044(63)5101

フランスは太平洋での
核実験をやめろ！



南太平洋民衆財団（カナダ）が作製した絵ハガキ
連絡先 ●
South Pacific Peoples Foundation of Canada, 409
620 View St. Victoria B.C., Canada

■日本の反核・反基地運動の課題 ……前田哲男

■フィリピン・レポート ……山田順二

■新連載

平和船団のすすめ（その1） ……鈴木茂樹／大嶋薫

ニュース・スピリット／反核ホットラインだより

トマホークの配備を許すな！ 全国運動

●維持会員（月間会費）

団体	1口	2000円
個人	1口	1000円

●参加会員（月間会費）

団体	1口	1000円
個人	1口	500円

●通信会員

年間	1口	2000円
----	----	-------

あなたも仲間！（会費は本誌購読料を含みます）

89年こそ チームスピリット の中止を!!

ヨーロッパにはまがりなりにも「軍縮」への風が吹きはじめ、朝鮮半島の人々の間には統一への願いが溢れているこの時になせ、「第二の朝鮮戦争」を想定した「チームスピリット演習」なのではないだろうか。
アメリカ政府、韓国政府、そして日本政府にハガキを出してこの軍事演習を今年こそ中止するよう求めましょう。

금년이야말로 팀 스피리트 훈련 중지의 해로!
NOT ANOTHER YEAR-STOP TEAM SPIRIT EXERCISE NOW!
今年こそチームスピリット演習の中止を!



四枚つづりの絵ハガキを作りました。シート七〇円(一〇〇シート以上なら六〇円)です(送料は別)。トマ喰虫社までご連絡ください。

非核独立太平洋の日 3.4 pm 6:30 記念集会

3月1日は非核独立太平洋の日、そしてビギニ・デー。太平洋の現状と私たちの明日を考える集会です。ぜひご参加下さい。
報告: ニック・マクレラン/山本孝人
(オーストラリア)(ピースボート)
スライド上映とフリー・トーク
●主催: 反トマ全国運動

●ベルギー議会に 手紙を!!

平和団体が核艦船
禁止法案を提出

1988年6月、「カクタス80」(ベルギーの平和団体)は、ベルギー政府に核艦船寄港の全面禁止を求める決議提案を行った。これには6人の与野党国会議員が署名を寄せた。決議提案は国会の外交委員会に付託され、89年春期の議題にとりあげられることになっている。

このことにより、ベルギー政府は、ベラウ、ニュージーランドのほか多くの南太平洋諸国につづき、核艦船を禁止することになるかもしれない。そうなればデンマークは、核艦船禁止のよきパートナーを得ることになる。

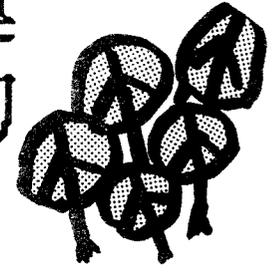
「カクタス80」はこの決議を通すために大々的なキャンペーンを行っている。国会内の核艦船禁止派はいまだ少数派で、どんな形の支持・圧力でも早急に必要とされている。次の外交委員会あてにぜひ手紙を出してほしい。

De Kamercommissie van Buitenlandse Betrekkingen, c/o Andre Damseaux
Paleis der Natie, Natieplein
Wetstraat, 1000 Brussels, Belgium

また、出した手紙のコピーを次の所に送ってほしい。

Mr. Patrick Leroy
CACTUS 80
St-Amandstraat 13, Brugge, Belgium

日本の 反核・ 反基地運動 の課題 (上)



第10回反トマホーク運動全国会議
(88.11.14 東京・町田)での講演
[文責: 編集部]

●前田哲男

まえだてつお
長崎放送記者を経てその後フリー。70年代を通じてミクロネシアにたびたび足を運び水爆実験による島民の被害状況取材。現在、軍事、核、太平洋問題を中心にルポ・評論活動を行っている。

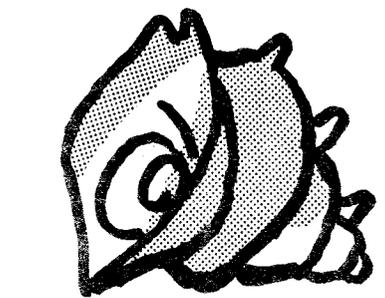
●時代は新しい民衆運動を求めている

「日本の反核・反基地運動の課題」というタイトルをいただいですぐに思ったのは、「反核・反基地運動」とひとつ並びのものとして書く考え方は、一体いつから出てきたのか、ということ。本来、反核運動と反基地運動は別物としてあったのではないかと、ということ。反核運動と言うと、私などはすぐ「ノーモア・ヒロシマ」というメッセージを思い出します。それは非常に普遍的な、世界に向けた理念的な運動という印象を持ちます。反面、足を持っていないというイメージ

ジもあります。これに対して反基地運動は、土着的、地域的、それから生活と権利の侵害に対する闘い、という感じでこっちは地に足がついているが、反面、翼を持っていないという気がするんですね。翼を持っているんだけども足を踏んでいない反核運動と、足を踏んでいるんだけど翼を持っていない反基地運動とは、どこか違ったものとしてあったのではないかと。反核運動はヒロシマ・ナガサキですし、一九五四年の第五福竜丸を契機にして大きな広

がりを持つ。反基地運動が具体的に出てくるのは一九五〇年の朝鮮戦争と警察予備隊↓保安隊↓自衛隊の再軍備過程と一体化している。発生過程も目標も、場所もかなり違った反核・反基地が、いつどこで並んだのか。私は一九六三年の佐世保をその時期、場所に指定したいと思います。アメリカの原子力潜水艦が初めて佐世保の港に入ってきた時、「反基地」は「反核基地」の形で私たちの前に突き出されたのではないかと思います。一九七一年のエンタープライズの佐世保入港で、より鮮明に核兵器が日本の港に入るようになりました。六〇年代は沖縄でも全く同じ状況がありました。グアムに常駐する戦略空軍のB52がやってくる。地上発射型巡航ミサイル・メーサーBが配備される。弾薬庫に戦術核兵器の保管が指摘される。といった状況がありました。一九六〇年代佐世保、沖縄によって反核と反基地、とりわけ日本の中の核基地は一つのものとして存在理由を明らかにしたと思うのです。その一番新しい形を私たちは今年の八月、横須賀でファイフとバンカーヒルの母港化ということにより鮮明に見ることになりました。より恒常的な核基地が首都圏の一角に、母港化、というより継続的な形でまたたけました。反核基地はよりリアルな命題として私たちの前にあると思います。

ですからこれは新しい型の民衆運動をおそらく要求するものであろうと思っんです。基地というその一点において土着的であり、生活と権利次元の闘いが要求され、核というレベルからは、より広がりを持った、理念的・普遍的なメッセージを付け加えなければならぬ。足を持ちかつ翼を持った闘いが、反核



後方をキープするための警察予備隊が創設される。二重の意味で基地が要請されました。新設、再接収という形で基地が重視されたと思います。横須賀・佐世保は平和都市宣言をした直後に再接収され、基地を強化されることになりました。警察予備隊発足に伴って、新しい基地が作られるということがありました。この時期にはもう戦略方向、基地の軍事的な指向は西を向いていました。朝鮮戦争ですから西向きです。基地の現場——同時に反基地闘争の現地——は北海道から九州、日本海側から太平洋沿岸にいたる日本全域におよびました。

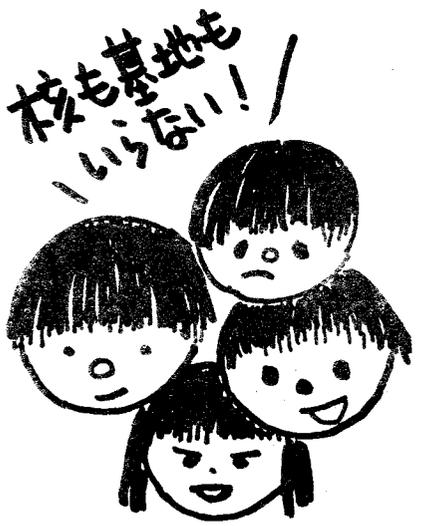
◆◆次号へ続く

●日本の軍事化の流れを二期にわけて考えると

さて、日本の基地状況、軍事状況はというと、私は今日の核の状況、基地の状況は、日本の再軍備過程——一九五〇年以降の歴史を三つに分ければ、その第三期にあたるのではないかと思うのです。

第一期は朝鮮戦争の時期、基地が激しく動いた時期です。第二期はベトナム戦争の時期、この時も基地が激しく動きました。第三期が今日の八〇年代後半ということになろうかと思えます。第一期が一九五〇年代、第二期が一九六〇年代から七〇年初期にかけて、そして第三期が一九八〇年代です。

六〇年代から七〇年代にかけてのベトナム戦争期における基地状況は、新設ではなしに再編・強化と言うべき状況にあったろうと思えます。横須賀・横田の「関東計画」と呼ばれる基地の集約強化計画がそのひとつの現れです。あるいは沖縄返還計画に伴って、沖縄の基地がより統合され、強化された形で維持継続の条件が作られる。全体の件数、面積を調べてみますと、この時期、件数も面積も減っており、しかし、機能の面から言いますと、横須賀、横田への集中統合、沖縄基地の再編・強化に見られるように、むしろ強まっている。ですから、ベトナム戦争期における基地の状況は再編・強化であり、南に向けたアジア安保として使われました。



●海を舞台にした「日常の有事化」の中で

そして今日の八〇年代の基地状況につながってきます。八〇年代の基地状況は、朝鮮戦争やベトナム戦争といったような意味では戦争を直接的な契機とはしていないように思えます。しかしアメリカとソ連との対決において、「日常の有事化」とも言うべき核抑止のためのせめぎ合いを背景にしながら、基地の新しい状況が生れてきている。そこに八〇年代基地状況の大きな特徴があると思います。この時期にまた、新設基地が目立って要求されることになったのも特徴の一つです。

新設基地が求められたことと、一九八〇年代の基地の特徴は、C Iという言葉で表現されるような「見えない基地」が、日本列島に張りめぐらされるようになった。「核のソフトウェア」といつていいのかもしれない。「軍事版ニューメディア」と言ってもいいのかもしれない。それらが非常に重視されるようになってきた。もうひとつは、今、F16の三沢配備以降顕著になっている、実戦化つまり実戦を想定した激しい演習があります。沖縄ではもう日常不断に行われていましたし、西ドイツを中心としたNATO諸国でも同じ

ようなことが行われていたんですけれど、日本ではこれまでさほど基地被害を受けてこなかった北海道・東北で、低空飛行訓練が頻繁に行われるようになりました。これはやはりF16の三沢配備、ソ連を主敵とする日米安保協力の変遷を表していると思います。アメリカがソ連と対決し、ソ連を威圧するためにとってきた戦略が、一九五〇年代、六〇年代の大陸をもってソ連を囲む図式、つまり大陸の沿辺を基地の鎖でつないでソ連を包囲する時期であったとすれば、一九七〇年代後半から八〇年代にかけて、はつきりとアメリカの対ソ戦略が海をもってソ連を囲む、あるいは開かれた海を支配してソ連の海軍力を付属海に押し込めて、そこで制圧するといった海軍戦略をとるようになった。このことと、日米安保の変遷は結びついているんですね。

「平和と開発に関する アジア太平洋人民会議」に参加して

ストップ・ザ・戦争への道！ひろしま講座 ● 山田順二

筆者は、マニラで開かれた「平和と開発に関するアジア太平洋人民会議」（一九八九年一月十一日から十五日）および関連プログラムに参加するため、去る一月十一日から二十日までフィリピンに行く機会をいただいた。この会議は、バヤン、NFIIP、オーストラリア反基地連合等が中心となって準備したもので、アジア太平洋地域十八ヶ国から二〇〇人近くの平和運動家に参加するという比較的大規模の大きな国際会議であった。以下は、その報告である。

● ●
会議は、フィリピン外務省とビジランテ（自警団）が反対声明を出すという緊迫した状況の下で開かれた。

一月十二日、開会式は九時半過ぎに始まった。歓迎の挨拶の後、各国の代表が旗を持って踊るバーナー・ダンスが披露された（音楽や美術など文化面の重視は、この会議で一貫した特徴であった）。連帯メッセージの紹介などの後、フィリピンのウィグベルト・タニヤード上院議員から基調報告がなされ、「恐怖の均衡」でなく武力によらない集団安全保障の必要性が説かれた。アオテアロア（ニュージーランド）のマリー・リードビーターさんからアジア太平洋地域の現状について、とくに軍事化、核軍縮の側面から詳細な報告が行われた。

一月十三日の午前中は、先住民の現状に関する集中的な報告と討論が行われた。アジア太平洋地域の先住民自身の口から人権抑圧の現状が語られた。午後の分科会は、前日と同じく二つのテーマが設けられた。「フィリピン、韓国、沖縄」介入の踏み台、「インド洋の軍事化と、アジア太平洋地域の平和と安全保障における意味」の二つである。筆者は前者に参加し、ここで初めて日本から抱えていった梅林宏道氏のレポート「日米安保条約とアジア太平洋に対するその意味」を紹介することができた。

一月十四日午後の分科会は小グループに分かれるけれども全員が同じテーマで討論をするものであった。テーマは前半が「アジア太平洋人民のオルタナティブな行動」、後半が会議で採択する「人民宣言」についてであった。

一月十五日、この日は午前中に最終全体討論を行い、様々な決議文を採択した。開会の

挨拶をしたのは、フィリピンの上院議員ジョゼフ・エストラーダ氏である。氏が十九日から二十日の平和キャラバンに参加する意志を述べると、会場から大きな喚声があがった。「マニラ宣言」の骨子は以下のようなものである。

「二十一世紀を迎えようとしている今日、平和と開発に対する人々の希求は計りしれない障害に直面している。軍事化、貧困、途上国からの資源流出、環境破壊などである。近年の米ソ対話が我々に希望を与える一方、アジア太平洋地域の核戦争の脅威は世界のどの地域よりも大きくなっている。我々は、核兵器の廃棄と米国を初めとする外国軍基地の撤去、ゴルバチョフ提案の真剣な協議、抑圧的体制に対する軍事援助の停止、開発援助使途の自主決定権、国際共同軍事演習の中止、核燃料サイクルの停止を要求する。我

● ●
私は、搾取や人権抑圧に反対する統一行動、先住民の土地権・自決権・自治に対する理解と支持、真の民主主義と経済開発のための統一行動を呼びかける」



クラーク空軍基地に向かって平和行進する各国代表団

十五日夜は「連帯の夕べ」と題する文化的催しが行われた。ホスト国フィリピンからの先住民の踊り、歌劇などに対し、各国の代表団は合唱、踊り、寸劇などで歓待に応えた。わが寄せ集め日本代表団は「Xデー」

をテーマにした寸劇を披露した。各国の人々は、日本にもマスコミとは違う見方をするものがあることを知って感激した様子だった。一月十七日から十八日は、分野別会議が開かれた。分野は「女性」、「青年」、「保健」、「労働運動」、「先住民」の五つに分かれ、筆者は「先住民」部会に参加した。

一月十九日から二十日は、クラーク空軍基地を目指す「平和キャラバン」が行われた（残念ながら筆者は航空券の都合で十九日夜にマニラに戻らなければならなかった）。このキャラバンは総勢三百台以上の車両を動員するという大規模なものであった。

しかし私たちは弾圧を経験する。前方には八箇所の検問所が待ち構えていた。各検問所には機関銃を構えた国軍兵士がフィリピン人の荷物を検査するのであった（外国人は対象外）。車が高速道路に入る頃には土砂降りになっていた。後で聞いた話だが、この雨は、集会を妨害するため米軍機が空中から薬品を散布して降らせた人工雨だったのだという。

こうして筆者のフィリピンでの行動は終わった。しかし、私たちの平和を創り出すための闘争はいつまでも終わることがない。そして、平和を求める人々は、出会い、再会し、共に生きていくことができるのである。

◆◆

反核ホット ライン

だより

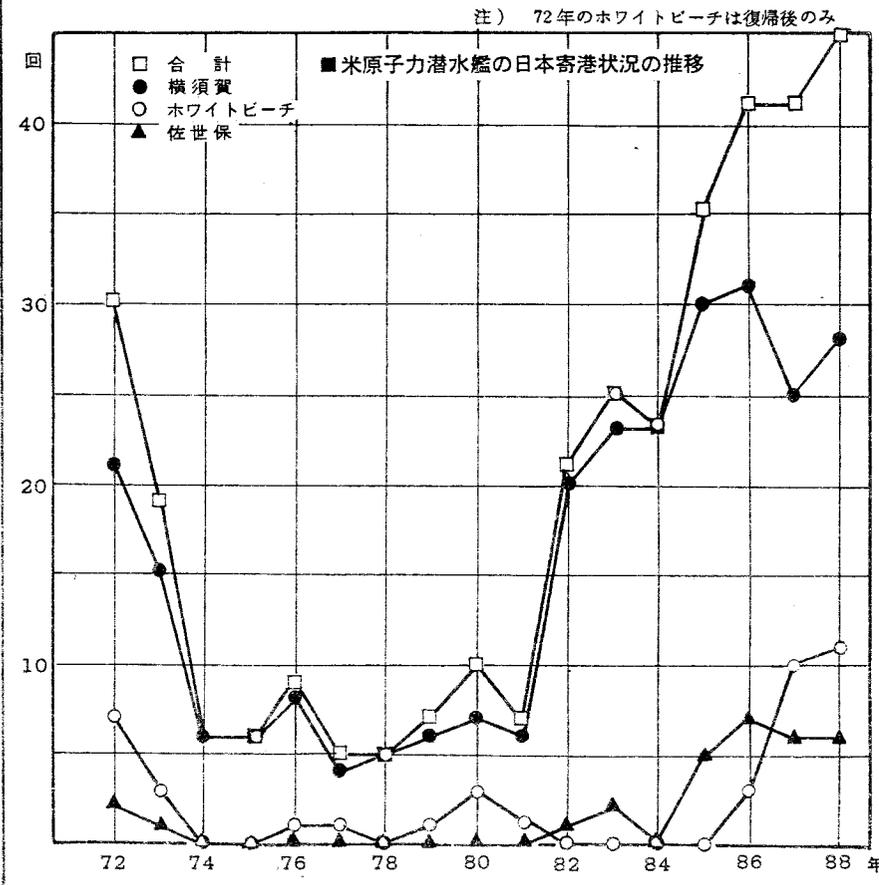
入港情報

- 89・1・11、2・10
- P級II (原子力潜水艦パーミット級)
 - S級II (原子力潜水艦スタージョン級)
 - L級II (原子力潜水艦ロサンゼルス級)
- (1・12) ロサンゼルス(L級) 午後3時
 ホワイトビーチを出港
- (1・28) ホノルル(L級) 午後2時
 横須賀に入港
- (2・3) ロサンゼルス(L級) 午後0時13分
 横須賀に入港
- (2・9) ホノルル(L級) 午前9時
 横須賀を出港

ロサンゼルス(L級) 午前10時
 横須賀を出港

1989年2月10日現在で各港への原子力艦入港回数は、

横須賀	2回
佐世保	0回
ホワイトビーチ	1回



原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず **井8301**、そして連絡番号 **968・1071**、次に暗証番号 **1071**

クロハ イレナイ

にゅす すびり

第四回 浮上するトマホーク検証問題

類被り許されない日本政府

全国運動情報コーディネーター 青木雅彦(京都市)

最近の国際政治の激変はさまざま。ゴルバチョフ政権登場以来のソ連の変身がその最大要因であることは衆目の一致するところだが、そのソ連とアメリカの戦略兵器の削減交渉(START)の中で、SDI、移動式小型ミサイルと並んで交渉の妨げになっているのがトマホーク(SLGM)だ。何しろこのミサイルは核・非核外見が全く同じ、しかも隠蔽しやすい小型と来ては、せつかく条約ができて相手を守っているかどうかの検証が困難だからだ。

これまで米側はこの戦略巡航ミサイルの分野での優位を崩されたくないため、ソ連の検証・規制案をことごとく拒否してきたが、最近になって核戦略全般の見直しとも絡んでトマホークの規制も考え始めているようだ。その際「核弾頭SLCMの所在を公に確認した場合の同盟国(例えば日本)との外交政策上の問題」(『米国の課題』第41代米国大統領への提言)88年11月21日付、スコークロフト

現国家安全保障大統領補佐官らの執筆部分を大変気にかけているようだから、日本政府としても軍縮交渉を前進させるために、「どうぞ洗いざらいブチまけて下さい」と米国防府を安心させてやってはどうか。

トマホークの核・非核の検証が軍備管理交渉の難題であることは配備前から指摘されていたことだったが、ソ連はこれを外部から識別できる新兵器(?)を開発したと発表。これを米ソ共同で使用しようと提案した。「反トマホーク通信87年12月号参照」ゴ書記長によると「核兵器の所在だけでなく性能まで判る」この「新兵器」に、ソ連は自信満々で、地中海で核トマホークの搭載艦を当ててみる実験をやってみせると提案したが米側はこれを拒否した。

専門家もこれには懐疑的で、MITのコスタ・ツイビス氏(核戦略・原子物理学)は、最近このトマホークの検証問題について提案を行った論文(『ビュレティン・オブ・ジ・

アトミックサイエンティスト)88年11月号)の中で、①多くの米艦船はトマホーク以外の核兵器も積んでいる②原潜などの場合原子炉から出る放射線と核弾頭から出るそれを区別できない③核弾頭の放射線は遮断可能であるなどの理由からこれを「明らかに非現実的」と一蹴している。

そこで氏は一案として製造段階での検証を提案する。トマホークの弾頭が非核であることを調べるためにγ線か中性子線を照射する。非核弾頭のものには核弾頭への転化を防ぐため「光ファイバーの網」がかけられる。又は核弾頭のものに相手国が一種の暗号の電子符牒を付けて、チェックされない核弾頭が製造されていないかを検査できるようにする、などである。

ずいぶんややこしい話だが、そうかと言つて巡航ミサイルを野放しにしておいたのでは「核軍縮」そのものが崩壊する。核トマホーク艦母港化をいの一歩に受け入れたどこかの国の政府には風馬牛なことだが、この「検証」問題解決に世界の命運がかかっている。今年4月、核実験の検証に関する国際会議が京都で開かれる。しかし今の日本に本当に必要なことは自国領土に持ち込まれている核兵器を「検証」してみせることではないのか。

(一九八九・二・十五記)

ヨットとモーターボートは遅れていったため、バンカーヒルは浦賀水道から横須賀港に頭を曲げ始めたところでした。それを他の船との集合場所に行こうするともろに前を横切る形になるので海上保安庁に「絶対通さない」といって足止めされていたんです。結果としては通船とヨット、ボートで「挟み撃ち」にはなっていたんですが、非常に距離がはなれていたの、お互いに全然気がつかなかった(笑い)。

ヨットとモーターボートは遅れていったため、バンカーヒルは浦賀水道から横須賀港に頭を曲げ始めたところでした。それを他の船との集合場所に行こうするともろに前を横切る形になるので海上保安庁に「絶対通さない」といって足止めされていたんです。結果としては通船とヨット、ボートで「挟み撃ち」にはなっていたんですが、非常に距離がはなれていたの、お互いに全然気がつかなかった(笑い)。

七月二十一日午前四時過ぎ、ようやく空が白み始めた頃、七隻のゴムボートは泊原発ゲート前に広がる堀株海水浴場を出発した。核燃料棒搬入阻止!」のノボリが二本。胸には思い思いのゼッケン。前夜から泊まり込んで見送ってくれた約五十人の仲間も、ボートに乗り込んだ十三人の「戦士」たちも、果たして無事もどれるのかどうか、不安と決意が入り混じったの出発だった。目指すは約一km先にある原発専用港湾。核燃料運搬船「能登丸」は、予定どおり午前六時入港に向けて寿都沖を通過したとの情報がマスコミを通じて入った。海は、私たちが一番気がかりであった波風が全くないベタなぎ。天気も快晴に近く、羊蹄山までがくつきり姿を見せて、私たちの行動を祝ってくれるかのようだった。気象条件が味方してくれたおかげで、午前五時前には七隻とも専用港湾入口に到着。到着の十分ぐらい前から、監視船一隻と巡視艇三隻が姿をあらわし私たちに警告を発し始め、「航路外への退去」を求めてボートに近づいてくる。港湾入口にいた頃には、巡



七隻のゴムボートで核燃料棒搬入に抗議した。●大嶋薫 トマホークの配備を許すな! 反核北海道行動 げで彼らの目的が「航路内にまちがって入りこんでしまったボートを保護する」という名目であることが判明。少し気持ちが軽くなった。当然にも私たちは自由な意志でこれらの職務遂行を拒否。約一時間にわたって追跡の手を逃れるが、多勢に無勢、動力に手漕ぎ。力つきて「御用」となり監視艇にゆえられ、能登丸入港から約一時間後、出港した海水浴場付近に放たれることになった。後の報道によると、私たちのゴムボート作戦の成果かどうか、能登丸は沖合に約三十分間停泊し、入港は三〇分遅れということであった。

◆◆◆

「平和船団」の新しい連載を始めます。そのヨロコビと醍醐味、可能性からハウツー、船上レポートなど、詳細は未定。オーブニングはこの人!ヨコスカ平和船団キャプテン(別にそういう「役職」があるわけではないけれど)鈴木茂樹さんの登場です。(編集部)

八十三年に、私は横須賀の仲間とオーストラリア、ニュージーランドの反核団体を訪ねました。

ニュージーランドでは、ニュージーランド平和船団の人たちがあたたかく迎えてくれて、一日かけてヨットでオークランドの港を案内してくれました。その時乗せてもらったのは二十人乗り位のすぐ立派なヨットだったんですけど、後になって聞いた話だと手漕ぎの小さいボートで始めたグループもあるし、ウインド・サーフィンやサーフ・ボードなどでやっている人もいる、別に私たちが乗った立派なヨットが主体というわけではない、とのことでした。オーストラリアではシドニーとメルボルン、そしてフリーマントルという三つの港を回ってきましたが、各地で同じような行動がやられていました。これが平和船団との出会いでした。

それまで、横須賀での私たちがやってきた

テモは陸上が主体でした。非常にまれな形では小さなボートを漕ぎ出して「反戦放送」をしたことはあったんですが、それをもっと大きくしていこうという発想はなかった。でも、オーストラリア、ニュージーランドを回ってきて、ぜひ横須賀でも同じように海上での抗議行動を作り出して、それを大きく大きく広げたい、そんな思いが、それ以来ずっと心の片隅にあったんです。

それが実際に形になったのが八十六年のこ

平和船団のすすめ

その1 発想・なぜ「船を出すのか」
語る人：鈴木茂樹(ヨコスカ平和船団)

とです。中古のゴムボートを手にいれて、この年の四月十九日、小雨の降る横須賀軍港に初めてが浮かべた。この日が最初でした。それからは、エンジン付きのプラスチックボート、新しいゴムボートとだんだん増えてきて、今ではゴムボートが四隻、プラスチックボートが二隻になりました。ようやく「団」という字がついて「平和船団」の形になりはじめた、というところです。

● ●

昨年の八月三十一日、ファイブとバンカーヒルが入ってきた時には、ついに念願のヨットが登場しました。その日は横浜からチャーター便の通船(水上タクシー)が二隻、横須賀港から少し離れた走水から、モーター付きのプラスチックボート二隻とこのヨットが一隻、そして基地の目の前の臨海公園からはゴムボート三隻。三方向から「包囲する」という、雄大な構想のもとに(笑い)出発したんですけども、モーターボートのエンジンが調子悪くて到着が遅れてしまったんです。ファイブが予定よりかなり早く入港してしまつたため、横浜からきた通船二隻がバンカーヒルとすれちがうかたちになり、一番接近できたのは三隻のゴムボートでした。

◆◆◆

会計報告

(89. 1. 17 ~ 2. 12)

[収入]

○前月からの繰越	△ 47,557
経常繰越	202,443
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	123,100
会費収入	100,000
内	
維持団体	40,000
維持個人	28,000
参加団体	0
参加個人	5,000
通信会員	27,000
カンパ収入	10,100
在庫品売り上	5,000
反核ホットライン	
売り上げ	8,000

[支出]

●今月の支出	△182,530
家賃(2月分)	40,000
水道光熱費	3,270
郵送費	27,470
印刷費	104,790
行動費	5,600
郵便振替等手数料	1,400
●次月への繰越	△106,987
経常繰越	143,013
借入金繰越	△250,000

(前ページ上段から)

ーズに入れないで、一時間、二時間あるいは半日以上手まどる、そんな状況が生まれれば、横須賀というのは非常に使いにくい港なんだということになり、横須賀の基地としての機能を低下させることが出来る。

これが横須賀だけでなく、佐世保、呉、沖縄のホワイト・ビーチでそういったことが出来れば、日本では核艦船がすんなりと寄れる港はなくなってしまうんですね。

つづく◆◆

集会「日本平和船団事始め」(2月8日 東京)での発言から。文責は編集部。

新着ビデオ

シドニー平和船団

— 平和を求める声



核艦船はいらない! 小さな船で核戦争の機械の前に立ちふさがった人々の行動と思いを伝える感動の小品。

●20分/VHS

●日本語版制作: トマホークの配備を

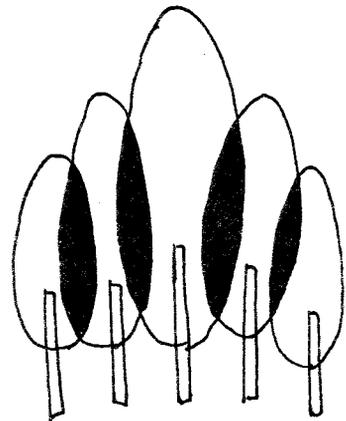
許すな! 全国運動

●販売価格 3500円 貸出しもあります。

(送料別) お問い合わせはトマ喰虫社まで

□前号の訂正とおわび

前号「非核の国ニュージールランドの平和運動」の記事の中で「オーストラリアのフリゲート艦四隻」の値段が「二兆ドル(一八〇兆円)とあったのは「二〇億ドル(一八〇〇億円)の誤りでした。訂正しておわびします。ご指摘くださったH・Mさん、ありがとうございました。(編集部)



月刊反トマホーク通信 第四十号

一九八九年一月二十日発行(通巻四十一号)

*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動

〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九

バル青山五〇二 トマ喰い虫社

〇三(四九八)六〇九五

〇四(六三)五二〇一

*編集 反トマホーク通信編集委員会

*定価 一〇〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)